

神経筋促通治療論

[講義] 第3学年 後期 選択 1単位

《履修上の留意事項》2020年度開講なし

《担当者名》○吉田晋 本家寿洋

【概 要】

理学療法・作業療法における治療方法の一つとして、神経生理学的アプローチがあげられる。本科目では、種々の神経生理学的アプローチの概念と理論について学ぶ。具体的には、PNF、CI療法、ボバースコンセプト、認知神経リハビリテーション等を取り上げて、その基本的な概念および理論、治療方法を紹介し、理学療法および作業療法への適用可能性について解説する。また、それらのアプローチ法における現状の科学的エビデンスレベルについても学習する。

【学習目標】

種々の神経生理学的アプローチの概念と理論について理解を深める。

1. 神経生理学的アプローチの概要を説明できる。
2. PNFの概要と摘要を説明できる。
3. PNFの基本手技を実施することができる。
4. CI療法概要と適応を説明できる。
5. ボバース概念とその適応を説明できる。
6. 認知運動療法の概要を説明できる。
7. ニューロリハビリテーションの概要を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	神経筋促通手技の概要	・神経筋促通手技の学際的基盤と理論的論議について	本家寿洋
2	CI療法	・Constraint Induced Movement Therapy (CI療法)の概要 ・CI療法の適応	本家寿洋
3	認知運動療法	・認知運動療法の概要 ・認知運動療法の適応	本家寿洋
4	ボバース概念とその適応	・ボバース概念の概要 ・ボバース概念の適応	本家寿洋
5	PNF手技の概要	PNFの基本概念や適応について学ぶ。	吉田晋
6	PNF演習	上下肢に対する基本手技や動作への応用について演習を通じて学ぶ。	吉田晋
7	ニューロリハビリテーション①	運動学習理論をベースとしたリハビリテーション的介入について学ぶ。	吉田晋
8	ニューロリハビリテーション②	tDCS、rTMSといった中枢神経系への物理的刺激を用いた促通方法やロボティクスを応用した手法について学ぶ。	吉田晋

【評価方法】

定期試験100%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【備 考】

教科書 : 特に指定しない。
各講義・演習で必要な資料を配布する。

参考書 : 柳澤健 他 著 「PNFマニュアル 改訂第3版」 南江堂 2011年
Susanne Hedin 著 「PNF基本的手技と機能的訓練」 医歯薬出版 2012年
Carlo Perfetti 他 著 「認知運動療法」 協同医書出版 2014年
Bettina Peath 著 「ボバースコンセプト実践編」 ガイアブックス 2013年
Berta Bobath 著 紀伊克昌 訳 「片麻痺の評価と治療」 医歯薬出版 1998年
大畑 光司 編 「ニューロリハと理学療法」 (理学療法MOOK 19) 2016年

【学習の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する内容について参考書を読むなど予習して授業に臨むこと。（80分以上）
授業後は配布資料、参考書や引用文献をもとに復習をしっかりとすること。（80分以上）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士）
本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

これまでの臨床経験を生かして講義を行う。